

地球観測衛星コンソーシアム (仮称) について

2022年6月
JAXA 第一宇宙技術部門

地球観測に関する産業界も交えた産・学・官での議論の場(コンソーシアムを想定)を、段階的に発展させていく形で作っていききたい。

- 政府においては、宇宙基本計画において衛星開発・実証プラットフォームが提言され、衛星開発実証小委が設置され、衛星戦略を議論する場が整った状況である。
- 衛星開発実証小委員会における議論に向けて、測位衛星は測位WG、通信衛星はスペースICT推進フォーラムにおいて、産学官など多様なステークホルダーとの議論により戦略が検討されている。衛星地球観測にかかる戦略も同様に議論し、まとめていく必要があると認識。
- 衛星地球観測のコミュニティとして、地球科学・リモートセンシングに関係する諸学協会等が参加しているリモセンTFやアカデミアとして日本学術会議等があるが、JAXAの地球観測衛星について民間との一層の連携、科学的知見を背景とした社会実装力が求められていることから、衛星地球観測にかかる、産・学・官による議論の機会を設けたい。
- 衛星リモートセンシングを取り巻く環境が変化する中、災害対策や地球規模課題の解決に貢献するためには予見性の確保や社会実装の推進が必要であるとともに、技術開発の発展や国際連携も求められる。科学、さらに産業界の意見を取り入れた上で20-30年先を見据えた衛星地球観測に係る長期シナリオが必要ではないか。
- 議論テーマ（例）：産学官連携（ミッションの共創、データ利用）、国際戦略、小型コンステレーション、人材育成など

本年9月頃、地球観測衛星コンソーシアム（仮称）の立ち上げを目指していききたい。

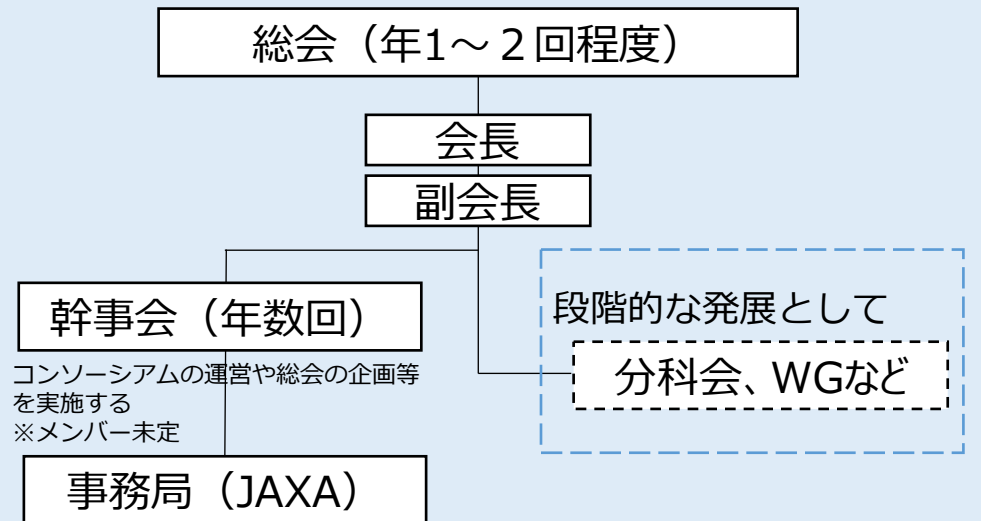
（目的）

第3条 衛星開発実証プラットフォームに資することを目的として、衛星の利用者や出資者を含めた**産学官が主体となり**、社会実装、競争力の強化に向けた**観測分野の全体戦略等にかかる提言を検討し、衛星開発・実証及びデータ利用に関する共創、並びに新規参入の促進に取り組む。**

（事業）

第4条 本コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （１）産学官による衛星地球観測分野の総合的な議論の促進及び戦略等の提言の策定
- （２）産学官による衛星開発・実証及びデータ利用に関する共創、並びに非宇宙分野を含むエンドユーザ拡大の推進
- （４）国内外の情報収集及び会員間での共有
- （５）会員間の交流推進及び人材の育成、並びに活動成果にかかる情報発信
- （６）その他コンソーシアムの目的を達成するために必要な活動



特に、1年目は、全体戦略に関する考えを提言としてまとめることに注力したい。

コンソーシアムにおける活動内容(案)

1. 観測分野の全体戦略に関する考え方(提言)等の検討 → 衛星開発実証小委等に対する提言をまとめることを目指す

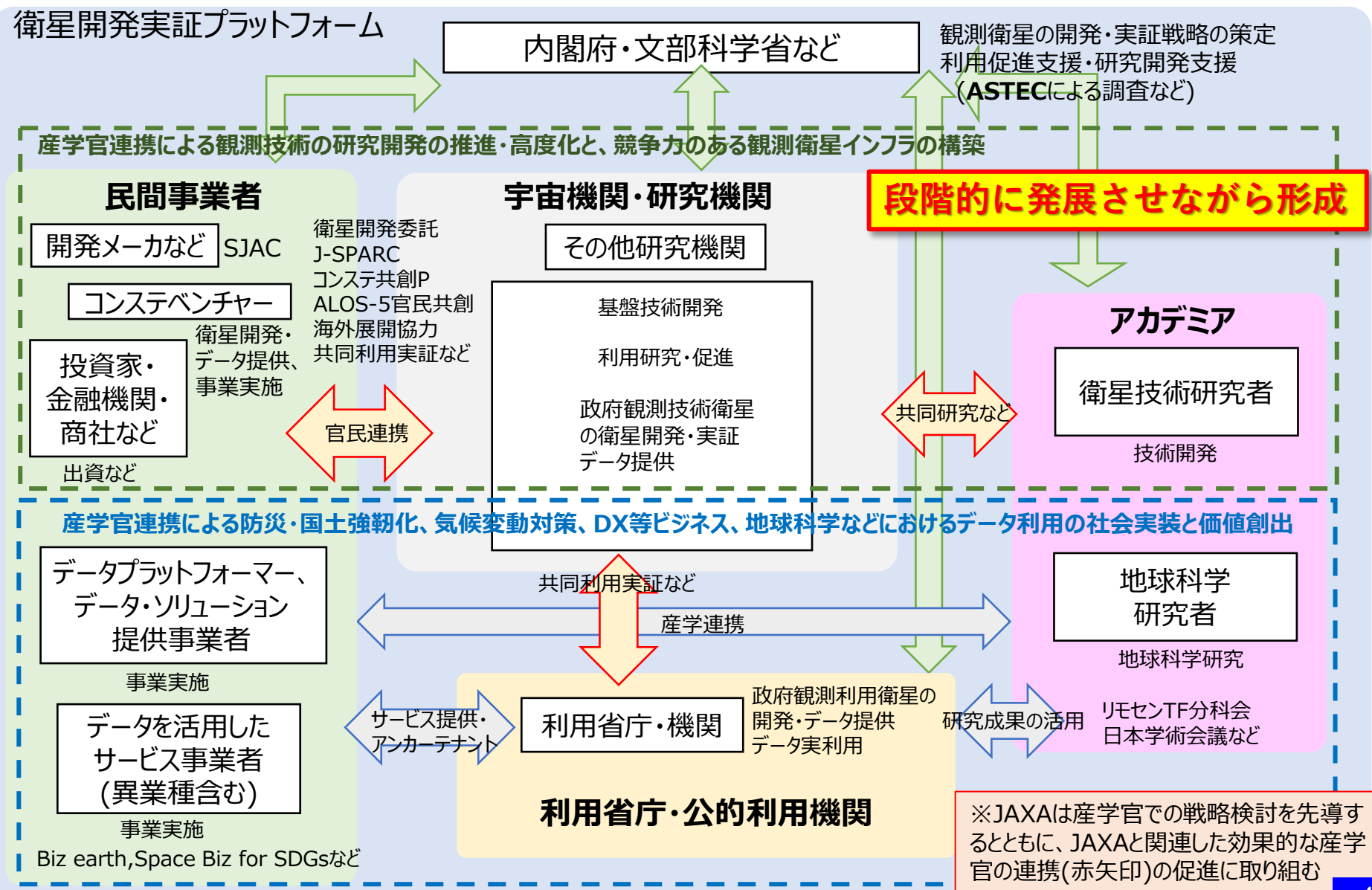
- 全体議論
- 個別重要テーマ

2. 産学官連携推進のための取組 → コンソーシアムメンバに広く周知し連携の取組への参画促進

- 新規プレーヤの参入促進
- 利用促進のための取組の推進・紹介
- JAXAにおける産学官共創プログラムの推進
- その他産学官のプレーヤ主体の取組との連携

1-2. 【参考】地球観測衛星にかかるステークホルダー関係図

衛星開発実証プラットフォームに資することを目的として、衛星の利用側や出資者を含めた**産学官の主体**で、社会実装、競争力の強化に向けた**観測分野の全体戦略等**にかかる提言を検討し、**衛星開発・実証及びデータ利用に関する共創**に取り組む。



1-3. 地球観測衛星コンソーシアム（仮称）に向けてお伺いしたい内容

- 産学官の地球観測衛星コンソーシアム(仮称) における議論の方向性を検討するため、以下に示す主要論点案に対するご意見を中心に、ここに含まれないものに対するご意見も含め、コンソーシアムにおいて重点的に参画メンバで議論すべきと考える論点、課題意識、戦略・施策案など、幅広くご意見を伺いたい。

1. 目指すべき将来像・観測分野を推進すべき理由

- ・ 2040年に実現すべき衛星観測が活用される社会像(バックキャスト)、衛星観測により想定される意義・価値など
- ・ 2030年において目指すべき我が国の衛星観測分野の産学官のエコシステムの姿(フォアキャスト：社会実装像・産業ビジョン)

2. 社会実装・利用拡大における課題と対策

- ・ 社会実装・利用拡大における課題の深堀り（なぜできないのか？どうしたらできるようになるのか？）
- ・ 現状の施策をマッピングし、強化すべき施策を識別（利用者と共同での利用実証、非宇宙分野と連携したソリューション創出等）
- ・ 防災・国土強靱化等に貢献する官民連携に基づく高分解能観測システムの社会実装のあり方

3. 新規ビジネス創出・産業基盤維持のための課題と対策

- ・ 我が国の宇宙産業の競争戦略(目指すべき将来像、実現に向けた課題と対策：自立性のための産業基盤維持・見えている官需・民需の獲得・発展(守りの議論)+イノベーション・現在想定していない新規需要の創出(攻めの議論))
- ・ ビジネス創出・利用拡大における課題の深堀り（なぜできないのか？どうしたらできるようになるのか？）
- ・ 現状の施策をマッピングし、強化すべき施策を識別（グローバル事業展開支援、ベンチャー支援、新規ビジネス創出支援等）
- ・ 自立性等のために強化すべき技術の識別、開発メーカ等産業基盤の維持の課題と対策、コンステ含む民間技術力の強化など

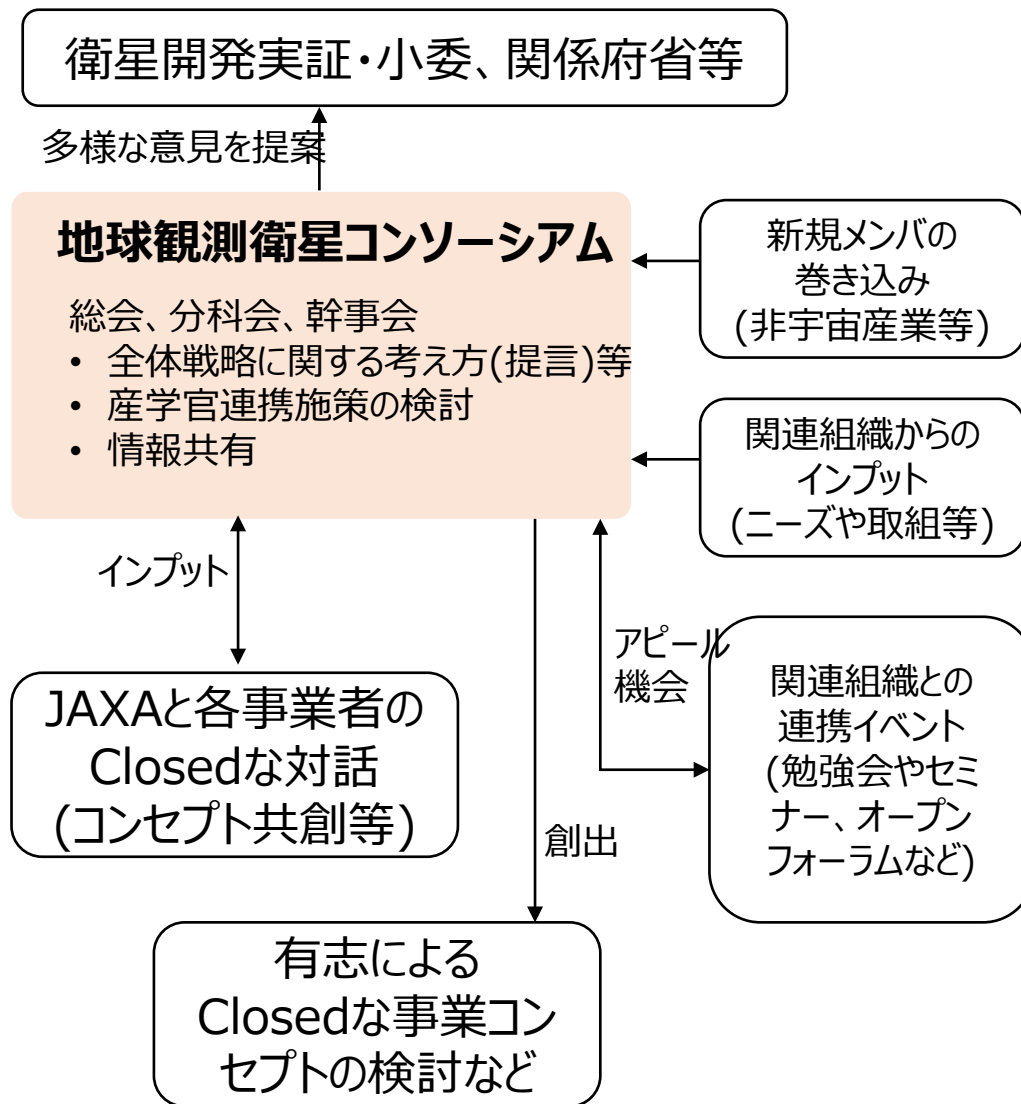
4. 衛星開発実証・基盤研究開発のあり方、衛星のベストミックス

- ・ 対応する政策ニーズの優先度・バランス、新規技術・非宇宙技術・開発プロセスの取り込み、重点分野の識別・選択と集中、産業界のニーズの取り込みなど
- ・ 官民の役割分担・官民の連携ミッション、従来ミッションの継続性と未来を見据えた新規ミッション創出のバランスのあり方、海外のベンチマーク、日本の強みの活かし方など

5. 戦略的・総合的な観測プログラムのあり方

- ・ 産学官連携に基づき戦略的・総合的に観測事業を推進するためのプログラム化の必要性、予見性・継続性を確保するための仕組み、重点推進分野、プログラムとしての事業推進のあり方など

1-4. コンソーシアム参加頂くことで考えられるメリット



【参画メンバー等へのメリット】

全般：

- 全体戦略に関する考え方（提言）・将来衛星への在り方、各種連携施策へのインプット機会、
- 情報収集・共有

宇宙業界：開発メーカ、コンステ事業者、データソリューション事業者、研究機関・アカデミア等

- 全般に加え、
- ニーズ把握
- 利用推進等での連携促進

非宇宙業界ユーザ、利用機関、出資機関向け

- 全般に加え、
- 利用可能性の理解
- ソリューションの発見
- 出資機会の発見

コンソーシアムの役割や機能において求めるメリット、ご要望などご意見をお聞かせください。